

2019年度

同志社女子大学 FD 講習会

授業改善につなげる

ルーブリック評価の意義と実践

本講習会では、大学教育においても注目されるルーブリック評価について、なぜ今必要とされているのかその背景をおさえたうえで、実際にどのように授業改善につなげていくべきかを紹介いたします。そして今回は、実際の学生の成果物（小レポート）をもとに、参加者が実践的・協同的に実際にルーブリックを作成し、評価するワークを行います。作成時の留意点や効果的な利用方法についてもともに考えていきたいと思っております。

〔日時〕

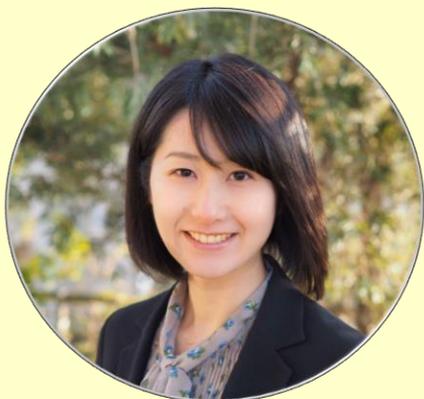
2019年10月16日（水）

16：00～（90分程度を予定）

〔場所〕

京田辺キャンパス

知徳館 C464 教室



講師 赤沢 真世（あかざわ まさよ）氏

（大阪成蹊大学 教育学部 准教授）

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程満期退学、同大学教育学部の助教ののち、立命館大学スポーツ健康科学部准教授（教育学担当）を経て、2015年4月より現職である大阪成蹊大学教育学部准教授。専攻は教育方法学、大学では教育課程論・教育方法論、および小学校外国語活動を担当している。主に英語教育について、京都府や静岡県における文科省委託事業「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」講師、また草津市などの教育委員会における英語教育アドバイザーを務めるほか、教育方法学の立場から、大阪市の理科実験観察プロジェクトの研修講師など授業改善にむけた研修の講師を務めている。